

9月定例会 一決算特別委員会

以下は一部抜粋です。全文は福岡県議会ホームページの「議事録検索」からご覧ください。

9月27日(金) 人づくり・県民生活部(男女共同参画推進課、女性活躍推進課)

『ジェンダー平等・男女共同参画の推進について』

Q 花田

近年はどのような狙いで事業を構築しているのか。また、令和5年度の(当時の)女性活躍推進室を含む男女共同参画推進課の事業の予算額や主な事業の実績をお示しください。

A 男女共同参画推進課長

主なものとして福岡県男女共同参画センター管理運営業務があり、実績としてあさばるフォーラムの参加人数は延べ7,347人、相談件数が延べ8,526件となっており、いずれも増加傾向にある。相談の内容としては、メンタルの不調に悩む方からのものが多い。

A 女性活躍推進課長

働く場における女性の活躍推進費として管理職層の女性人材を育成するための階層別研修があり、令和3年度から5年度までの3年間で、100社・団体から延べ249名の方が研修を受講し修了された。

9月30日(月) 福祉労働部(労働局 就業支援課)

『就職氷河期世代への就業支援について』

Q 花田

卒業時に不安定な就労や無業に移行したこと、本来の希望とかけ離れた条件で就職せざるを得なかったことによる早期の離職や転職などが端緒となり、今なお非正規雇用などの不安定就労を余儀なくされている方も多い。福岡県における就職氷河期世代の現在の就業に係る状況について伺う。

A 就業支援課長

総務省が令和4年度に実施した就業構造基本調査によると、県内の就職氷河期とされる40歳から54歳の就業者は91万5,300人と推計されており、前回平成29年度調査と比較すると3万5,900人増加している。この世代のうち、不本意に非正規雇用で働く方は令和29年度で約1万200人減少し、令和4年度は2万7,600人と推計されている。また、無業の状態にあって家事や通学をしていない方は、平成29年度より6,500人減少し、令和4年度は4万8,900人と推計されている。

10月1日(火) 商工部(自動車・水素産業振興課)

『水素産業振興について』

Q 花田

私は8月、ニューサウスウェールズ州訪問団に加わり、グリーン水素・アンモニアの製造・輸出の世界的拠点の構築を目指す取組を目の当たりにしてきた。グリーン水素をはじめとする低炭素水素を巡り各国で大型の投資計画などの動きが活発化する中、我が県が各国との交流や市場調査を行う狙いについて改めて伺う。

A 自動車・水素産業振興課長

同州は豊富で安価な再生可能エネルギーに加え、世界最大の石炭積出港など既存のインフラを活用し、低コストなグリーン水素の製造・輸出の世界的拠点の構築を目指している。このため本県と同州は昨年11月、「水素分野における協力促進に関する覚書」を締結し、両地域の企業間マッチングや大学の交流、将来的な輸入の可能性も視野に入れた情報収集に取り組んでいる。

ピックアップ 一質問にて前進! -

筑豊緑地 新遊具広場の供用エリア拡大!

私が令和4年6月議会にて質問しておりました「障がいの有無に関わらず誰もが公平に一緒に楽しく利用できる」インクルーシブ遊具(詳しくは「はなだり3号」をご覧ください)が筑豊緑地に設置されることになりました。昨年11月末から既に供用されていたエアに加え、本年1月15日から新遊具広場がさらに拡大されました。そして本年の夏頃には、残りの遊具や駐車場、大屋根広場、介助用ベッドを備えたバリアフリートイレなど全てのエリアが供用開始となり、全国的にインクルーシブ遊具がトップクラスの充実した公園となります。ぜひとも、ご利用してみてください。



大人と子と一緒に乗れるブランコ



車椅子のまま利用できる遊具

『県鳥獣被害対策システム』運用開始

県は1月14日、イノシシやシカ、サルといった野生鳥獣による様々な問題への対策として『県鳥獣被害対策システム』を開発し、運用を開始しました。このシステムはスマホやパソコンで誰でも無料で閲覧・投稿ができるほか、出没情報(日時や種類、被害など)や捕獲情報を一括してデータ化していく集約サイトで、全国初となります。県内の野生鳥獣による農作物被害額は約6億円(2023年度)で北海道に次いで全国2番目の多さとなっており、近年は人の被害も増えているため早急な対応が求められています。効率的な捕獲や被害防止につなげるためには何より情報の収集・蓄積が重要ですので、皆様も積極的に投稿をお願いいたします。(誤りと見られる情報はチェックされ削除していかれます。)



地図上でも確認ができる

視察報告

以下は一部概要です。記載外の訪問先や視察で学んだ詳細な情報は、機会をいただけましたらご説明いただけます。

農林水産委員会 朝倉農林事務所 管内視察 【日程】7月8日(月)～9日(火) 【行先】朝倉市、うきは市、久留米市

●JA筑前あさくら 朝倉フルーツファーム@朝倉市 『被災農家に対する営農支援について』

平成29年の九州北部豪雨災害の被災農業者に対する営農支援としてJA筑前あさくらが農地の利用権を取得し、パイプハウスや果樹棚などの栽培施設も整備(『活力ある高収益型園芸産地育成事業(令和4年度)』)を活用)した上で、農業者に2年間ファームディレクターとして生産管理を委託しています。そして3年目以降に経営譲渡することで、農業者の初期投資の負担軽減や植えつけ後の収穫が無い未収益期間の短縮を実現されています。ここでは主にスモモを栽培しており、早期の成園化や管理作業の省力化・軽労化に向けて「低樹高V字ジョイント仕立て栽培」に取り組み、植えつけから成園までの期間の短縮も図っています。



低樹高V字ジョイント仕立て

この他に、以下の箇所を視察しました。

- 朝倉農林事務所 @朝倉市
『管内事業の概要説明、管内市町村要望』
- 林農園 @朝倉市
『梨を中心とした経営の多角化の取組について』
- (株)マルジョウ @うきは市
『施設概要(木本加工)について』
- 有千広農産 @久留米市
『農福連携の取組について』

福岡県・ニューサウスウェールズ州交流促進訪問団 【日程】8月3日(土)～8日(木) 【行先】カウラ市、シドニー市

●オーストラリア人・日本人戦争墓地、カウラ日本庭園・文化センター@カウラ市
『80周年記念式典、献花式、メイ・ウィアーメモリアルモーニングティー』

カウラ(日本軍捕虜脱走)事件から80周年を迎えて平和への認識を深めることや、地元にあるトヨタにも関連ある水素事業の促進などの観点から私も訪問団に手を挙げ、服部知事らと共にオーストラリアに行ってまいりました。

1944年8月4日(南半球では冬)深夜1時50分頃、シドニーから約300km西にあるカウラにある連合軍の戦争捕虜収容所で増え続ける日本兵捕虜を分離移動させようとした際、1,104名以上の日本軍捕虜が不名誉を免れるために銃のナイフやフォーク、薪や野球のバット等を武器に脱走を試みたものの機銃掃射で瞬く間に鎮圧され、日本兵の231名が死亡、107名が負傷し、オーストラリア兵も4名亡くなりました。その後、両政府の間で各地の日本人戦没者墓問題が協議され、オーストラリア人戦没者墓地の隣の土地に日本政府が永久借地権を取得し、1964年11月に日本人戦争墓地が開設されました。今回は市長主催の80周年記念式典公式夕食会が前夜にあり、州総督(国王代理)参列のもと献花式(日本人墓地では仏教・神道儀式で)が執り行われました。慰霊祭は毎年8月に開催されており、墓地の維持管理は地元住民の方々によって行われています。日本国民として知らないかったことに対して申し訳なさと、何より感謝の気持ちでいっぱいになりました。また事件当時、脱走に成功した数名がいましたが、逃げ込んだ農場のメイ・ウィアーフ夫人は彼らを気の毒に思い、自宅に招き入れスコーンと紅茶を提供してくださったそうです。そして1週間後、別の場所で捕らえられた脱走兵に対しても「連行する前にスコーンとお茶を与えるべきだ」と主張し、同様に自宅でもなしたそうです。日本友好のシンボルであるカウラ日本庭園・文化センターにて、我々もスコーンと紅茶をいただきながら夫人の慈しみの心に触れ、世界の平和を願いました。



服部知事による献花



スコーンと紅茶

この他に、以下の箇所を視察しました。

- サブロー・ナガクラ・パーク @カウラ市
- シドニー福岡県人会との意見交換会@シドニー市(以下)
- セントラル・シドニー・インテンシブ・イングリッシュ・ハイスクール訪問
- 福岡県観光セミナー・交流会(旅行代理店・メディア等)
- NSW州教育省訪問
- NSW州産業貿易大臣及びエネルギー環境大臣表敬訪問
- 福岡県教育旅行セミナー・交流会(学校関係者)
- エムシーアイ・カーボン社訪問(ニューカッスル大学エネルギー資源研究所内プラント)
- オリカ社(アンモニア製造プラント)訪問

海外視察について

福岡県は友好提携・交流がある米国(ハワイ州)・タイ(バンコク都)・ベトナム(ハノイ市)・韓国(南岸地域)・インド(デリー州)・中国(江蘇省)のほか、台湾や欧州・オーストラリアやアメリカといった様々な国・地域との国際交流があります。県議会も同様にそれぞれの友好議連盟があり、一年の中でお互いに訪問し合い交流を深めています。

子育て支援・人財育成調査特別委員会 管内視察 【日程】8月20日(火)～21日(水) 【行先】遠賀町、田川市

●福岡県立大学 不登校・ひきこもりサポートセンター@田川市

『福岡県立大学での不登校・ひきこもり支援について』

不登校・ひきこもりに関する相談、支援、情報提供、研修及び研究・調査を行うことを目的に平成19年に設立。県内の20歳未満の方を対象に、大学教員、サポートセンターの専門職員、県立大学生(県子どももサポート)が一体となり、総合的な支援を実施しています。初年度は770件であった相談数は令和5年度で4,782件となっており、家庭訪問から個別支援「キャンパス・キッズ」と緩やかな段階を経て、学習支援や心理的サポートを行う学内のフリースクール「キャンパス・スクール」には毎年20～30名の県内小・中・高生が通っています。また、月に1度は保護者の不安や孤立感の低減を目的とした家族交流会も実施しており、総合的な環境支援に取り組んでいます。



センター玄関前にて

- この他に、以下の箇所を視察しました。
- 遠賀町子育て支援広場「ぐいびい」@JR遠賀川駅 おんがみらいテラス3階『子育て支援施設について』
- 遠賀南学童保育クラブ『放課後児童クラブについて』

【県内不登校生徒数(令和5年度)】※公(県)立・私立の総数
(小)中学生 18,123名 (高校生) 3,427名
お悩みがある方は事務所までご連絡ください。

自民党県議団 1・2期合同視察 【日程】11月4日(月)～5日(火) 【行先】宮城県仙台市、岩手県紫波町

●オガールプロジェクト@紫波町 『公民連携のまちづくりについて』

9年間未使用だった駅前の町有地10.7haを活用した公民連携のまちづくりで、町の財政負担を最小限に抑えながら行った総合開発です。町が100%出資する第3セクター「オガール紫波(株)」を設立し民間資本を受け入れながら民官一体の開発を行っており、役場の新庁舎や複合施設、商業施設、スポーツ施設、住宅地など町民が必要とする施設が順次整備され、当初は年間30万人の目標であった来訪者数も平成30年には100万人を超えていました。地方の都市開発において外部からの消費を呼び込むことに主眼を置く場合、華美過大な設備投資を行うケースが多く、結果として自治体の負担や施設の利用率低下に繋がります。ここでは事業規模や施設整備の計画にあたり、まずテナント誘致やニーズの市場調査に重点を置き、リスクの少ない不動産開発に努めたためオープン時の入居率が100%を実現しています。



施設風景

この他に、以下の箇所を視察しました。

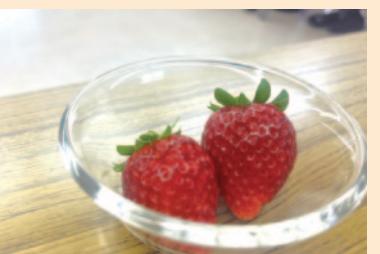
- 震災遺構 仙台市立荒浜小学校@仙台市『防災・減災について』
- JRフルーツパーク仙台あらはま@仙台市『地域・農業振興の取組について』
- 楽天モバイルパーク宮城@仙台市『ポールパーク構造とその取組について』

1・2期生は常任委員会の委員長や副委員長を務めており、幅広いテーマで視察先を選定いたしました。

農林水産委員会 管外視察 【日程】11月13日(水)～15日(金) 【行先】新潟県新潟市、栃木県栃木市、東京都中央区

●栃木県農業総合研究センター いちご研究所@栃木市 『イチゴの振興について』

「いちご研究所」は全国唯一のいちご専門研究機関として平成20年に設立され、経営やマーケティングの調査分析機能も有しています。栃木県はイチゴの収穫量・作付面積・産出額がいずれも全国1位で、県農業大学校に全国初の「いちご学科」もあり優れた技術と高い経営能力を持つ「いちご経営者」の育成を目指しています。近年、新たな品種として「とちあいか」を売り出しており、収穫始めが10月下旬と早く、「とちおとめ」より収量が3～4割ほど多くて大きいそうです。私も試食しましたが歯ごたえのあるシャキッとした食感が特徴的で、これは最大の消費地である東京や関西圏または海外への輸送に適応するための堅さがそうです。しかし、我が県の「あまおう」も負けではありません、販売単価では20年連続で全国1位です。生産や販売、輸出などを独占的にできる育成者権は本年1月19日に切れましたが、引き続きの供給は県内生産者に限られたままです。が、県は新幹線や飛行機を利用した高速流通や販路拡大にさらに取り組み、日本一・世界一のイチゴを目指してまいります。



とちあいか

この他に、以下の箇所を視察しました。

- 新潟県 産業労働部地域産業振興課@新潟市『県産酒の振興について』
- 越後のお酒ミュージアム「ほんしゅ館」@新潟市『施設概要について』
- 代官山IASO チェレステ日本橋店@中央区『首都圏における県産食材の販売促進について』
- 銀座・新潟情報館 THE NIIGATA@中央区『施設概要について』

「とちあいか」は「とちおとめ」の次の主力品種として栃木県が開発したいちごで、2018年に「栃木I37号」として品種登録を出願し、2020年に商標登録されました。25年間の育成権が与えられています。